

学校法人身延山学園 平成27年度財務比率表

1) 消費収支計算書より

比率	計算式	27年度	
人件費比率	人件費/事業活動収入	41.31%	<p>平均値(25.1%) 耐震工事への寄付金(特別収入)により、事業活動収入が対前年49.5%増加となるも、依然として事業活動収入が低調であるため、他大学に比し、見劣りする給与額(人件費)にもかかわらず平均値を超過した高数値が継続している。</p> <p>【評価】低い値がよい</p>
人件費依存比率	人件費/学生生徒等納付金	265.24%	<p>平均値(101.82%) 恒常的な定員割れにより学納金収入が低調であるため、他大学に比し、見劣りする給与額にもかかわらず平均値の2倍超となる高数値が継続している。</p> <p>【評価】低い値がよい</p>
教育研究経費比率	教育研究経費/事業活動収入	13.76%	<p>平均値(15.91%) 事業活動収入が前述のとおり低調であるも、財務状況悪化によりすべての支出削減を継続中であり、教育研究経費もやむなく削減した。このため、平均値を下回る数値となった。</p> <p>【評価】高い値がよい</p>
管理経費比率	管理経費/事業活動収入	7.84%	<p>平均値(5.6%) 事業活動収入については前述のとおり。財務状況悪化により管理経費も削減しており、業務運営上最低限の支出に止めているが、平均値を超過した数値となった。分母が小さいこともあるが、支出の見直しが必要。</p> <p>【評価】低い値がよい</p>
事業活動収支比率	事業活動支出/事業活動収入	159.38%	<p>平均値(90.68%) 事業活動収入の不調を事業活動支出削減でカバーしきれず、平成10年度以降支出超過の状態が継続中である。</p> <p>【評価】低い値がよい</p>
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/事業活動収入	15.57%	<p>平均値(24.65%) 前述のとおり学納金収入が低調であることから、本数値は平均値を大幅に下回った。学生・生徒数を確保し、本数値を引き上げることが当学園の最重要課題である。</p> <p>【評価】どちらとも言えない</p>
寄付金比率	寄付金/事業活動収入	64.78%	<p>平均値(50.35%) 特別収入にある耐震工事への寄付金を含めた数値である。当学園は設置母体である身延山久遠寺から、学納金収入、補助金収入を上回る大口寄付金を毎年安定的に受領している。</p> <p>【評価】高い値がよい</p>
補助金比率	補助金/事業活動収入	15.56%	<p>平均値(5.57%) 平均値の3倍弱の高数値であるが、学納金を始めとした収入全般が少ないための、結果としての高数値であり、自主財源の脆弱さを示している。</p> <p>【評価】高い値がよい</p>
基本金組入率	基本金組入額/事業活動収入	60.19%	<p>平均値(47.18%) 事業活動収入からどれだけ基本金に組入れたかを示す比率である。100%組入れを行った。</p> <p>【評価】高い値がよい</p>
減価償却費比率	減価償却額/事業活動支出	10.49%	<p>平均値(13.40%) 事業活動支出のうちの減価償却費の割合を見る比率。事業活動支出とされているものの実質的には消費されずに蓄積される資金の割合を示すもの。</p> <p>【評価】どちらとも言えない</p>
事業活動収支差額比率	(事業活動収入－事業活動支出)/事業活動収入	36.55%	<p>平均値(52.10%) 本年は耐震工事の寄付金により、事業活動収入が事業活動支出をкаろうじて上回ったが、例年、経常的に事業活動支出が事業活動収入を上回っている。学納金増加に何が必要か原点に立ち返り、検討する必要がある。</p> <p>【評価】高い値がよい</p>
借入金等利息比率	借入金等利息/事業活動収入	0.00%	<p>平均値(0.2%) 借入金は113百万円であり資産規模に比較して少なく、さらに、利息支払を伴う借入金は0円であることから平均値を下回ることができた。</p> <p>【評価】低い値がよい</p>

1) 貸借対照表より

比率	計算式	27年度	
固定資産構成比率	固定資産/総資産	91.34%	平均値(85.5%) 総額5億円の耐震工事により固定資産が増加したことによる。 【評価】低い値が良い
流動資産構成比率	流動資産/総資産	8.66%	平均値(14.5%) 財務状況が逼迫しており、経常的に流動資産不足である。 【評価】高い値が良い
固定負債構成比率	固定負債/総資金	2.65%	平均値(16.2%) 長期借入金が少なく、平均値を下回った。 【評価】低い値が良い
流動負債構成比率	流動負債/総資金	1.28%	平均値(4.8%) 短期借入金、前受金等の流動負債額は小さく平均値を下回った。 【評価】低い値が良い
自己資金構成比率	自己資金/総資金	96.07%	平均値(79.0%) 負債が少なく数値的には平均値を上回るも、算式の構成要素である消費支出差額がマイナスであり実力以上の数値となっている。 【評価】高い値が良い
消費収支差額構成比率	消費収支差額/総資金	-4.91%	平均値(-26.1%) が示すとおり、小規模地方私立大学では消費収支差額がマイナス計上となる大学が多い。 【評価】高い値が良い
固定比率	固定資産/自己資金	73.78%	平均値(108.0%) 消費支出超過が自己資金数値を引下げている。自己資金のみで固定資産をまかないきれず、不足分を負債でカバーしている状況。 【評価】低い値が良い
固定長期適合率	固定資産/自己資金+固定負債	71.80%	平均値(89.8%) 100%以下で低いほど良いとされる指標。かろうじて自己資金、固定負債で固定資産をまかなっている。 【評価】低い値が良い
流動比率	流動資産/流動負債	524.64%	平均値(302.2%) 耐震工事への国庫補助金が未収入金として計上され、流動性として残ったもの。一時的なものである。 【評価】高い値が良い
総負債比率	総負債/総資産	5.06%	平均値(21.0%) 固定負債・流動負債等他人資金が少なく本数値は良好である。 【評価】低い値が良い
負債比率	総負債/自己資金	4.09%	平均値(26.5%) 負債(借入れによる他人資金)が少なく本数値は良好。 【評価】低い値が良い
前受金保有率	現金預金/前受金	243.56%	平均値(475.4%) 27年度中に耐震工事資金を支払ったため、数値が悪化している。 【評価】高い値が良い
退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金(資産)/退職給与引当金	592.19%	平均値(53.3%) 従来からの積み立てにより引当金以上の特定預金を計上。 【評価】高い値が良い
減価償却比率	減価償却累計額(除図書)/減価償却資産取得額(除図書)	60.75%	平均値(53.5%) 減価償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合である。資産取得年次が古いほど又は耐用年数を短期間に設定するほどこの比率は高くなる。 【評価】どちらとも言えない

*総資金＝負債＋基本金＋消費支出差額

*自己資金＝基本金＋消費支出差額